

救急の現況

令和3年

病院へ行く？ 救急車を呼ぶ？ 迷ったら

シャープ

#7119

救急安心センターぎふ

つながらない時は
058-265-0009

イメージキャラクター
かいてみいちゃん

令和3年10月1日
運用開始！
迷ったら
かけてみい～

サービス対象地域
岐阜市 瑞穂市 山県市
本巣市 北方町

岐阜市消防本部 救急課

岐阜市消防本部

当消防本部は、平成 30 年 4 月 1 日から 4 市 1 町において消防広域化の運用を開始しました。

この現況の平成 30 年のデータについては、広域化前の各消防本部の数値を含みます。また、平成 29 年以前のデータについては、広域化前の岐阜市消防本部の数値となります。

～平成 29 年度までの管轄地域～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市

山県市消防本部 山県市

本巣消防事務組合消防本部 本巣市・北方町

～平成 30 年度から～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市・山県市・本巣市・北方町

～令和 3 年 10 月 1 日から～

救急安心センターぎふ#7119 の運用開始

救急の概況（令和3年）

□救急出場件数 22,885 件、搬送人員 21,271 人

令和3年中の救急出場件数は22,885件、搬送人員は21,271人であった。

1日平均の出場件数は、約63件で23分に1件の割合で救急車が出場し、当消防本部管内の住民25人に1人が救急車を利用したことになる。

事故種別ごとにみた救急出場件数の状況は、急病14,410件、一般負傷3,839件、交通事故1,875件の順となっており、特に急病は全出場件数の63.0%を占めている。

□心肺停止傷病者への救命処置について

救急隊員が救命処置した心肺停止傷病者521人のうち、脈拍と呼吸が回復し1ヵ月生存した傷病者は18人、そのうち社会復帰した傷病者は11人となっている。

主な救命処置別では、除細動を30人に実施し4人が社会復帰した。気管内チューブによる気道確保（ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管含む）は、14人に実施した。

また、薬剤投与（アドレナリン投与）は56人に実施した。

□救急救命士の養成について

救急救命士は、新たに6人を養成し、採用時救急救命士資格保持者4人と合わせて延べ156人となった。

また、気管内チューブによる気道確保可能な救急救命士は7人養成し延べ95人、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管可能な救急救命士は5人養成し延べ40人、薬剤投与が可能な救急救命士については9人養成し延べ138人となった。

血糖測定及び低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液（以下「新処置」という）が可能な救急救命士を14人養成し延べ98人となっている。

□救急隊員の教育・訓練の実施について

救急救命士を含む救急隊員の全国的な交流と知識・技術の資質向上を図るために、第29回全国救急隊員シンポジウム、第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会、第24回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会等の各種学会、第42回救急コ・メディカルセミナーにオンラインにて参加した。

また、消防本部としては、第9回多数傷病者対応訓練、階級に応じた救急訓練を実施した。

さらに、メディカルコントロール体制の充実を図るため、5箇所の医療機関に救急隊を派遣しワークステーション方式による病院研修及び1箇所の医療機関では病院実習を実施している。

□応急手当の普及啓発活動について

救急車が現場に到着するまでの間に、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られることから住民、各種事業所及び

各種団体を対象に広く救命講習を開催している。

また、令和3年は新型コロナウイルス感染症拡大により応急手当普及員講習Ⅰが開催されていないため、応急手当普及員は91人となり、既存の普及員により10回の救命講習が実施された。

□救急業務の推進について

救急活動の効率的な遂行を図るため、学識経験者、公募による住民代表者、岐阜市医師会及び医療機関の医師で構成する岐阜市救急業務対策協議会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催とした。

□救急業務体験研修について

救急医療の重要性を認識し、救急業務の理解を深めた人材の育成を図ることを目的に、岐阜大学医学部、岐阜県総合医療センター及び岐阜市民病院と協定を締結し、医学生及び研修医を対象とした救急業務体験研修を実施している。

このように、医療関係者を研修生として受入れることで、消防機関と医療機関の連携が今まで以上に強化され、救急医療の一層の充実が図られている。

□乗用車型ドクターカーの運用状況について

平成30年4月1日から、岐阜大学医学部附属病院の事業に協力して、消防本部管内で発生した重症事案に対し、消防本部に待機した医師・看護師が、消防職員の運転する乗用車型ドクターカーで、救急現場に出場している。

出場した医師・看護師が必要に応じ救急現場等から治療を開始し、医療機関へ搬送途上の救急車内で治療を継続することで、重症傷病者の救命率の向上及び後遺症の軽減が期待される。

ドクターカーの出場件数は488件、医師が救急車に同乗し医療機関へ搬送した人員は192人であった。

□救急安心センターぎふ#7119の運用開始について

令和3年10月1日から救急安心センターぎふ#7119の運用を開始しました。この事業は、住民が急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだほうがいいのかなど迷った際の相談窓口として、看護師等の医療従事者から電話でアドバイスを受けることができます。

令和3年10月1日～令和3年12月31日の相談実績は、救急相談が1,170件、病院案内が747件、その他が65件の計1,982件であった。

目 次

第1 救急業務実施体制の現況

救急業務実施体制	1
----------	---

第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況	2～4
2 救急隊別出場状況	5
3 事故種別出場件数及び搬送人員	6・7
4 年齢区分別事故種別搬送人員	8
5 月別1日平均及び曜日別出場件数	9
6 時刻別事故種別出場件数	10
7 現場到着所要時間別出場件数	11
8 傷病者の収容所要時間	12
9 診療科目別搬送人員	13
10 傷病程度別搬送人員	14・15
11 急病に係る搬送人員	16・17

第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置	18・19
2 ウツタイン様式調査	20

第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員	21
2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員	21
3 転送の状況	22

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況-----23

2 救命講習の受講人員の推移-----24

令和3年救急業務の年表-----25～28

第1 救急業務実施体制の現況

1 救急業務実施体制

岐阜市消防本部における救急業務は、令和3年12月31日現在、6消防署、15分署で、救急隊数21隊、救急隊員数210人で編成している。

また、高度救急救命体制の核となる救急救命士の資格を有する人数は156人(うち女性7人)、高規格救急車27台を運用し、計画的に救急業務の高度化を推進している。

第1表 救急業務実施体制

◎ 令和3年12月31日現在の救急業務実施体制	
○ 消防署数	21 署(消防署6、分署15)
○ 管内面積	833.60 km ²
○ 管内人口	537,626 人
○ 救急業務実施署	21 署(消防署6、分署15)
○ 救急隊数	21 隊
○ 救急隊員数	210 人
○ 救急車保有台数	27 台(うち6台は非常用救急車)

第2表 救急隊の配備と救急救命士等の養成状況

区分 年	救急隊数	救急隊員数	救急救命士数	救急救命士					救急科 修了者 (250時間)
				採用職員	気管挿管	ビデオ 喉頭鏡	薬剤投与	新処置	
平成12年	11	110	13						220
平成13年	11	110	15						241
平成14年	11	110	18						255
平成15年	11	110	21						269
平成16年	11	110	24		1				274
平成17年	12	120	29	1	6				292
平成18年	13	130	34	1	9		3		270
平成19年	14	140	40	4	14		9		305
平成20年	15	150	49	5	19		18		338
平成21年	15	150	57	9	24		24		382
平成22年	15	150	64	12	29		36		399
平成23年	15	150	67	12	34	0	46		393
平成24年	15	150	67	10	38	1	53		381
平成25年	15	150	71	11	43	3	61		398
平成26年	15	150	75	12	48	6	67		392
平成27年	15	150	81	14	49	7	70	9	392
平成28年	15	150	87	14	56	9	76	20	408
平成29年	15	150	92	14	60	15	84	32	398
平成30年	21	210	137	17	88	28	121	62	486
令和元年	21	210	144	21	91	31	128	78	503
令和2年	21	210	150	24	92	37	133	86	507
令和3年	21	210	156	27	95	40	138	98	501

採用職員とは、岐阜市消防本部採用時に救急救命士の資格を有する職員

気管挿管は平成16年7月法制化

薬剤投与は平成18年4月法制化

ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管は平成23年8月付加

新処置(血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖投与、CPA前静脈路確保と輸液)は平成26年4月法制化

第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況

令和3年中における救急業務の実施状況は、出場件数22,885件、搬送人員21,271人で、前年に比べ出場件数956件（4.4%）、搬送人員950人（4.7%）増加した。

1日あたり平均63件、23分に1件の割合で救急隊が出場したことになる。

住民の25人に1人が救急隊によって搬送されたことになる。

第3表 救急業務の実施状況

区分	年	令和3年 A	令和2年 B	対前年比	
				増減 A-B=C	増減率 C÷B
出場件数		22,885件	21,929件	956件	4.4%
医師搬送出場件数		4件	9件	-5件	-55.6%
資器材等搬送件数		1件	1件	0件	0.0%
傷病者搬送件数		21,077件	20,168件	909件	4.5%
傷病者不搬送件数		1,803件	1,751件	52件	3.0%
傷病者搬送人員		21,271人	20,321人	950人	4.7%
内訳	男性	10,692人	10,317人	375人	3.6%
	女性	10,579人	10,004人	575人	5.7%
1日平均出場件数		63件	60件	管内人口 令和3年12月31日現在 537,626人	
救急事故発生率		23分に1件	24分に1件		
救急自動車利用率		25人に1人	27人に1人		
人口1万人当たりの出場件数		426件	405件		

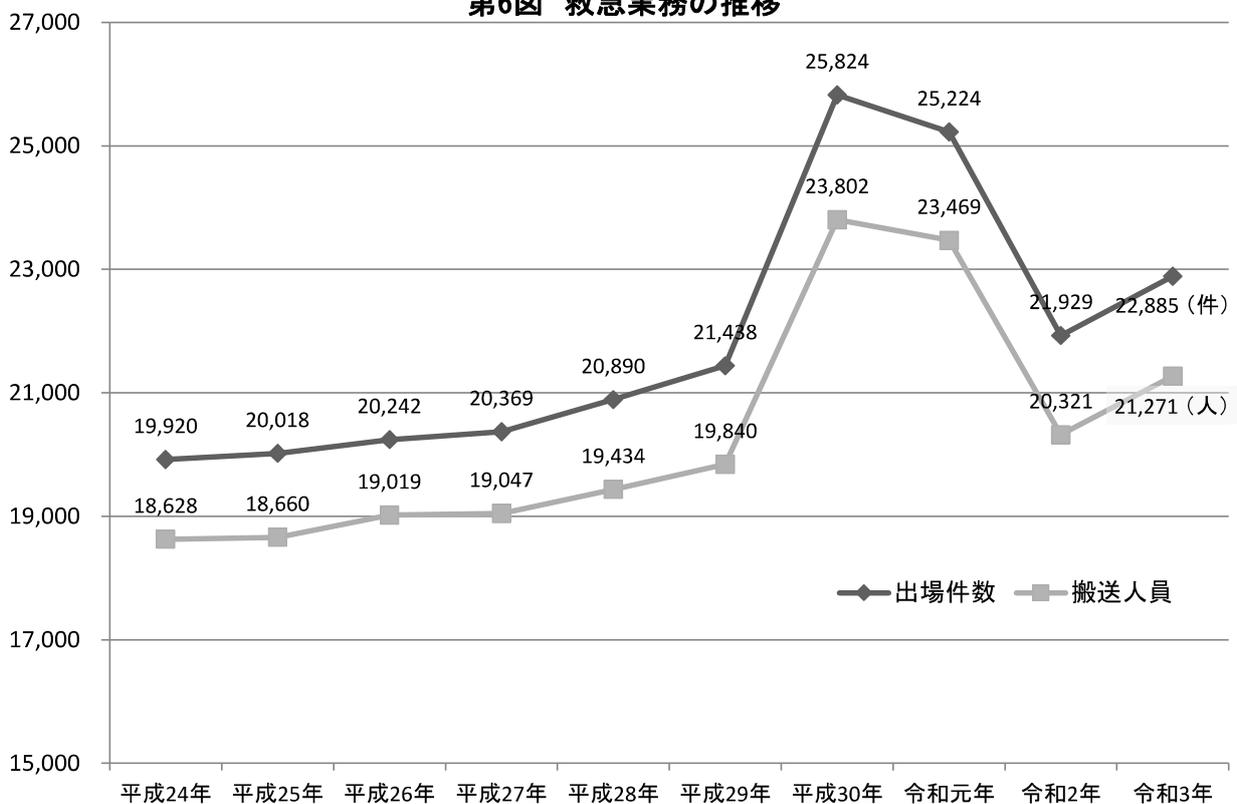
第4表 市・県・国における現況比較

	岐阜市消防本部	岐阜県 (令和2年)	全国 (令和2年)
救急車数（非常用含む）	27台	149台	6,579台
年間出場件数	22,885件	80,409件	5,933,277件
1日平均出場件数	63件	220件	16,211件
救急事故発生率	23分に1件	6.6分に1件	5.3秒に1件
人口比搬送率（救急車利用率）	25人に1人	26人に1人	24人に1人
現場到着平均所要時間	7.8分	8.4分	8.9分
病院収容平均所要時間	33.4分	34.8分	40.6分

第5表 救急業務の推移状況(過去10年)

年	救急出場件数			搬送人員数			人口1万人あたりの 出場数	消防本部 管内人口
	出場 件数	対前 年比	増減率	搬送 人員	対前 年比	増減率		
平成24年	19,920	465	2.6%	18,628	2,380	14.6%	423	470,928
平成25年	20,018	98	0.5%	18,660	32	0.2%	426	469,416
平成26年	20,242	224	1.1%	19,019	359	1.9%	432	468,763
平成27年	20,369	127	0.6%	19,047	28	0.1%	436	467,690
平成28年	20,890	521	2.6%	19,434	387	2.0%	447	466,919
平成29年	21,438	548	2.6%	19,840	406	2.1%	460	465,966
平成30年	25,824	4,386	20.5%	23,802	3,962	20.0%	474	544,977
令和元年	25,224	-600	-2.3%	23,469	-333	-1.4%	464	543,607
令和2年	21,929	-3,295	-13.1%	20,321	-3,148	-13.4%	405	541,318
令和3年	22,885	956	4.4%	21,271	950	4.7%	426	537,626

第6図 救急業務の推移



第7表 救急活動状況(事故別行政区域別)

事故種別	行政区域	合計			岐阜市			瑞穂市			山県市			本巣市			北方町			管轄外		
		3年	2年	増減	3年	2年	増減	3年	2年	増減	3年	2年	増減	3年	2年	増減	3年	2年	増減	3年	2年	増減
合計	出場件数	22,885	21,929	966	18,026	17,370	656	1,728	1,611	117	993	909	84	1,386	1,344	41	748	692	56	5	3	2
	搬送件数	21,077	20,168	909	16,587	15,972	615	1,597	1,460	137	920	840	80	1,269	1,242	27	700	651	49	4	3	1
	搬送人員	21,271	20,321	950	16,726	16,073	652	1,626	1,477	149	928	846	83	1,284	1,260	24	704	663	41	4	3	1
火災	出場件数	98	101	-3	65	77	-12	11	6	5	5	6	-1	16	8	8	1	4	-3	0	0	0
	搬送件数	26	14	12	20	10	10	2	1	1	1	2	-1	3	1	2	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	29	15	14	23	11	12	2	1	1	1	2	-1	3	1	2	0	0	0	0	0	0
自然災害	出場件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水難事故	出場件数	16	21	-5	6	18	-12	4	0	4	2	2	0	2	1	1	1	0	1	1	0	1
	搬送件数	6	4	2	1	3	-2	2	0	2	0	0	0	2	1	1	1	0	1	0	0	0
	搬送人員	6	4	2	1	3	-2	2	0	2	0	0	0	2	1	1	1	0	1	0	0	0
交通事故	出場件数	1,875	1,748	127	1,406	1,358	48	189	144	45	61	46	15	154	127	27	65	73	-8	0	0	0
	搬送件数	1,741	1,606	135	1,310	1,247	63	178	136	42	53	41	12	142	118	24	58	64	-6	0	0	0
	搬送人員	1,903	1,739	164	1,424	1,330	94	202	153	49	60	45	15	157	135	22	60	76	-16	0	0	0
労働災害	出場件数	202	203	-1	131	129	2	24	19	5	11	15	-4	32	31	1	4	9	-5	0	0	0
	搬送件数	201	203	-2	130	129	1	24	19	5	11	15	-4	32	31	1	4	9	-5	0	0	0
	搬送人員	203	203	0	132	129	3	24	19	5	11	15	-4	32	31	1	4	9	-5	0	0	0
運動競技	出場件数	156	150	6	128	120	8	8	9	-1	3	2	1	14	14	0	3	5	-2	0	0	0
	搬送件数	156	148	8	128	118	10	8	9	-1	3	2	1	14	14	0	3	5	-2	0	0	0
	搬送人員	158	152	6	130	122	8	8	9	-1	3	2	1	14	14	0	3	5	-2	0	0	0
一般負傷	出場件数	3,839	3,835	4	3,002	2,998	4	279	307	-28	191	189	2	261	227	34	106	114	-8	0	0	0
	搬送件数	3,634	3,647	-13	2,842	2,855	-13	267	289	-22	182	180	2	244	215	29	99	108	-9	0	0	0
	搬送人員	3,643	3,654	-11	2,849	2,862	-13	269	289	-20	182	180	2	244	215	29	99	108	-9	0	0	0
加害	出場件数	64	81	-17	52	67	-15	6	7	-1	2	0	2	1	3	-2	3	4	-1	0	0	0
	搬送件数	52	67	-15	44	57	-13	3	5	-2	2	0	2	1	1	0	2	4	-2	0	0	0
	搬送人員	52	67	-15	43	57	-14	4	5	-1	2	0	2	1	1	0	2	4	-2	0	0	0
自損行為	出場件数	204	196	8	161	159	2	15	11	4	3	8	-5	18	10	8	7	8	-1	0	0	0
	搬送件数	121	133	-12	93	100	-7	12	8	4	2	7	-5	10	10	0	4	8	-4	0	0	0
	搬送人員	121	133	-12	93	100	-7	12	8	4	2	7	-5	10	10	0	4	8	-4	0	0	0
急病	出場件数	14,410	13,867	543	11,363	10,966	397	1,106	1,035	71	624	563	61	839	876	-37	476	425	51	2	2	0
	搬送件数	13,406	12,810	596	10,532	10,121	411	1,043	942	101	594	528	66	784	811	-27	451	406	45	2	2	0
	搬送人員	13,423	12,817	606	10,544	10,126	418	1,045	942	103	595	529	66	784	812	-28	453	406	47	2	2	0
転院搬送	出場件数	1,736	1,537	199	1,489	1,333	156	58	51	7	72	65	7	37	40	-3	78	47	31	2	1	1
	搬送件数	1,734	1,536	198	1,487	1,332	155	58	51	7	72	65	7	37	40	-3	78	47	31	2	1	1
	搬送人員	1,733	1,537	196	1,486	1,333	153	58	51	7	72	65	7	37	40	-3	78	47	31	2	1	1
その他	出場件数	285	190	95	223	145	78	28	22	6	19	13	6	11	7	4	4	3	1	0	0	0
	搬送件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 救急隊別出場状況

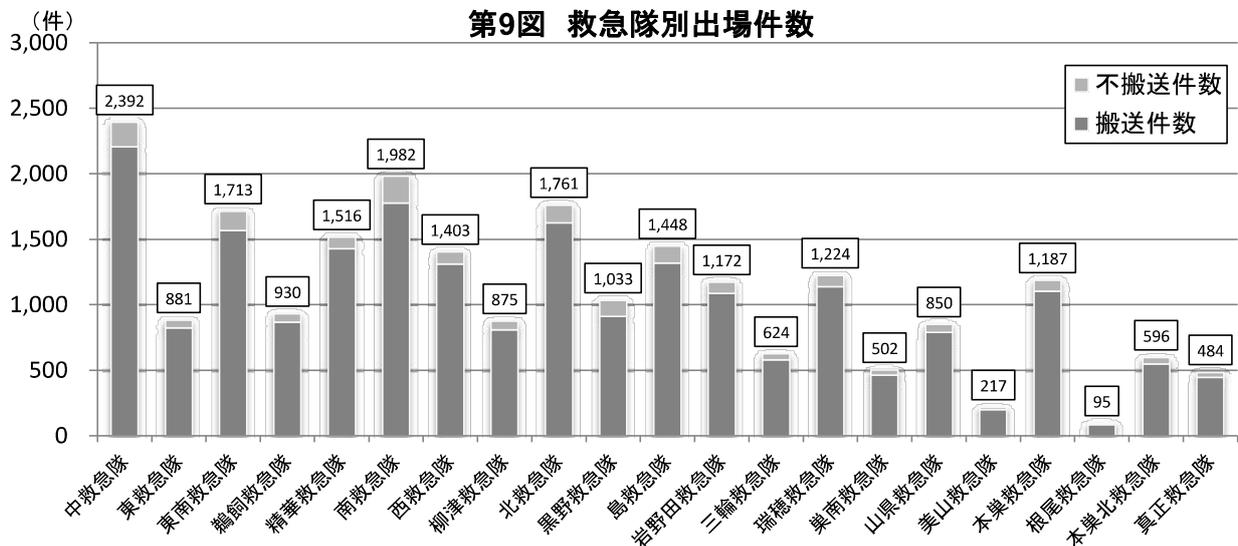
最も多く出場しているのは中救急隊の2,392件（構成比10.5%）で1日平均6.6件、最も少ないのは根尾救急隊の95件（構成比0.4%）で1日平均0.3件となっている。救急救命士搭乗件数は、22,885件とすべての救急出場において救急救命士が搭乗している。

第8表 救急隊別出場状況

出隊隊		区分	出場件数	構成比	前年 出場件数	増 減	1ヶ月 平均	1日平均	搬送人員	不搬送 件数
中消防署	中救急隊		2,392 (0)	10.5%	2,504	-112	199.3	6.6	2,217	186
	東救急隊		881 (0)	3.8%	795	86	73.4	2.4	835	57
	東南救急隊		1,713 (0)	7.5%	1,701	12	142.8	4.7	1,577	146
	鵜飼救急隊		930 (0)	4.1%	909	21	77.5	2.5	875	62
	精華救急隊		1,516 (0)	6.6%	1,518	-2	126.3	4.2	1,446	88
南消防署	南救急隊		1,982 (0)	8.7%	1,936	46	165.2	5.4	1,796	205
	西救急隊		1,403 (0)	6.1%	1,293	110	116.9	3.8	1,326	93
	柳津救急隊		875 (0)	3.8%	788	87	72.9	2.4	818	66
北消防署	北救急隊		1,761 (0)	7.7%	1,663	98	146.8	4.8	1,630	136
	黒野救急隊		1,033 (0)	4.5%	962	71	86.1	2.8	914	122
	島救急隊		1,448 (0)	6.3%	1,297	151	120.7	4.0	1,335	131
	岩野田救急隊		1,172 (0)	5.1%	1,107	65	97.7	3.2	1,089	86
	三輪救急隊		624 (0)	2.7%	598	26	52.0	1.7	583	45
瑞穂	瑞穂救急隊		1,224 (0)	5.3%	1,128	96	102.0	3.4	1,154	86
	巢南救急隊		502 (0)	2.2%	486	16	41.8	1.4	472	41
山県	山県救急隊		850 (0)	3.7%	775	75	70.8	2.3	796	61
	美山救急隊		217 (0)	0.9%	222	-5	18.1	0.6	202	18
本巢署	本巢救急隊		1,187 (0)	5.2%	1,107	80	98.9	3.3	1,114	83
	根尾救急隊		95 (0)	0.4%	106	-11	7.9	0.3	85	10
	本巢北救急隊		596 (0)	2.6%	576	20	49.7	1.6	552	48
	真正救急隊		484 (0)	2.1%	458	26	40.3	1.3	455	38
全体			22,885 (0)	100.0%	21,929	956	1,907.1	62.7	21,271	1,808

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

出場件数の（ ）内は、救急救命士非搭乗件数



3 事故種別出場件数及び搬送人員

救急出場件数及び搬送人員を事故種別で見ると、第1位が急病、第2位が一般負傷、第3位が交通事故の順となっており、第3位までの出場件数は全体の87.9%と大半を占めている。

第10表 事故種別出場件数及び搬送人員

年 事故種別	令和3年		令和2年		対前年比	
	出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病	14,410	63.0%	13,867	63.2%	543	3.9%
	13,423	63.1%	12,817	63.1%	606	4.7%
交通事故	1,875	8.2%	1,748	8.0%	127	7.3%
	1,903	8.9%	1,739	8.6%	164	9.4%
一般負傷	3,839	16.8%	3,835	17.5%	4	0.1%
	3,643	17.1%	3,654	18.0%	-11	-0.3%
加害	64	0.3%	81	0.4%	-17	-21.0%
	52	0.2%	67	0.3%	-15	-22.4%
労働災害	202	0.9%	203	0.9%	-1	-0.5%
	203	1.0%	203	1.0%	0	0.0%
自損行為	204	0.9%	196	0.9%	8	4.1%
	121	0.6%	133	0.7%	-12	-9.0%
運動競技	156	0.7%	150	0.7%	6	4.0%
	158	0.7%	152	0.7%	6	3.9%
火災	98	0.4%	101	0.5%	-3	-3.0%
	29	0.1%	15	0.1%	14	93.3%
水難	16	0.1%	21	0.1%	-5	-23.8%
	6	0.0%	4	0.0%	2	50.0%
自然災害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1,736	7.6%	1,537	7.0%	199	12.9%
	1,733	8.1%	1,537	7.6%	196	12.8%
その他	285	1.2%	190	0.9%	95	50.0%
	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	22,885	100.0%	21,929	100.0%	956	4.4%
	21,271	100.0%	20,321	100.0%	950	4.7%

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第11表 事故種別搬送人員の推移

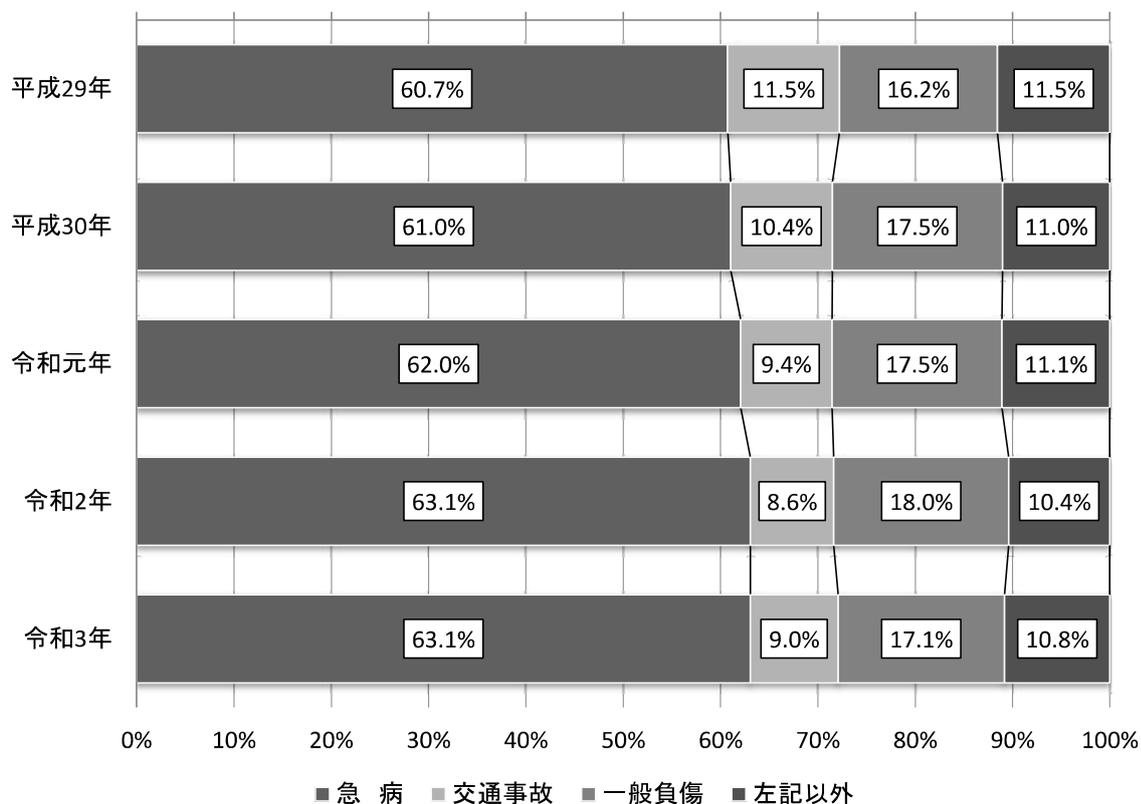
搬送人員を事故種別搬送人員構成比で見ると、交通事故の占める割合が増加し、一般負傷は減少している。

年	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
平成29年	12,050 (60.7)	2,276 (11.5)	3,223 (16.2)	2,291 (11.5)	19,840 (100.0)
平成30年	14,531 (61.0)	2,482 (10.4)	4,167 (17.5)	2,622 (11.0)	23,802 (100.0)
令和元年	14,561 (62.0)	2,209 (9.4)	4,099 (17.5)	2,600 (11.1)	23,469 (100.0)
令和2年	12,817 (63.1)	1,739 (8.6)	3,654 (18.0)	2,111 (10.4)	20,321 (100.0)
令和3年	13,423 (63.1)	1,903 (9.0)	3,643 (17.1)	2,302 (10.8)	21,271 (100.0)

注) ()内は、年別構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第12図 事故種別搬送人員構成比の推移



4 年齢区別事故種別搬送人員

全搬送人員に対する年齢区別の搬送人員をみると、高齢者13,329人、成人6,473人の両者で全体の93.1%を占めている。年齢区別事故種別構成比でみると、急病では高齢者65.6%、成人29.0%が高く、交通事故では成人が57.8%を占めている。

第13表 年齢区別事故種別搬送人員

年齢区分 \ 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
新生児	7 (0.1)	0 (0.0)	2 (0.1)	1 (0.0)	10 (0.0)
乳幼児	447 (3.3)	51 (2.7)	209 (5.7)	27 (1.2)	734 (3.5)
少年	274 (2.0)	218 (11.5)	128 (3.5)	105 (4.6)	725 (3.4)
成人	3,887 (29.0)	1,100 (57.8)	599 (16.4)	887 (38.5)	6,473 (30.4)
高齢者	8,808 (65.6)	534 (28.1)	2,705 (74.3)	1,282 (55.7)	13,329 (62.7)
65歳から74歳	2,148 (16.0)	237 (12.5)	528 (14.5)	358 (15.6)	3,271 (15.4)
75歳から84歳	3,508 (26.1)	220 (11.6)	1,043 (28.6)	485 (21.1)	5,256 (24.7)
85歳以上	3,152 (23.5)	77 (4.0)	1,134 (31.1)	439 (19.1)	4,802 (22.6)
計	13,423 (100.0)	1,903 (100.0)	3,643 (100.0)	2,302 (100.0)	21,271 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・年齢区分の定義 (以下同じ)

新生児：生後28日未満の者

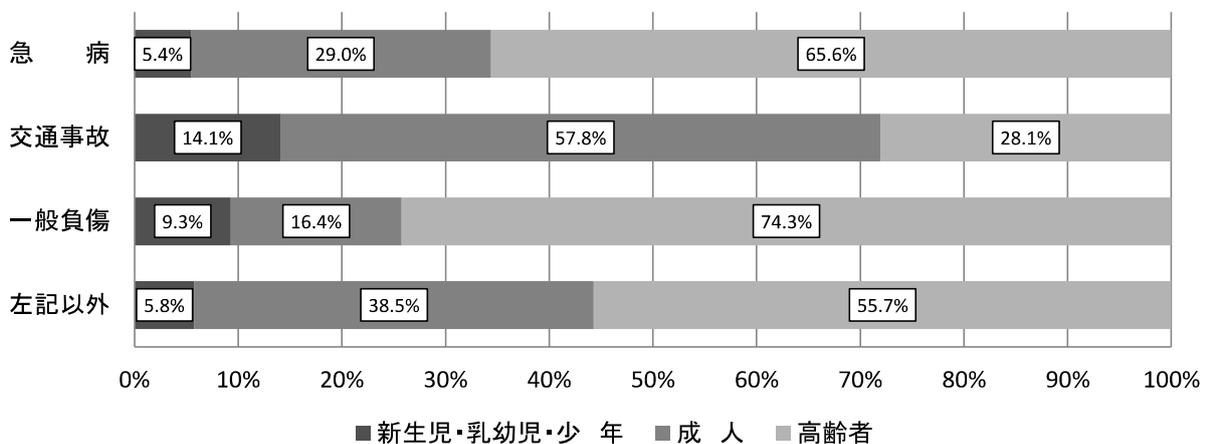
成人：満18歳以上満65歳未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

第14図 年齢区別搬送人員割合



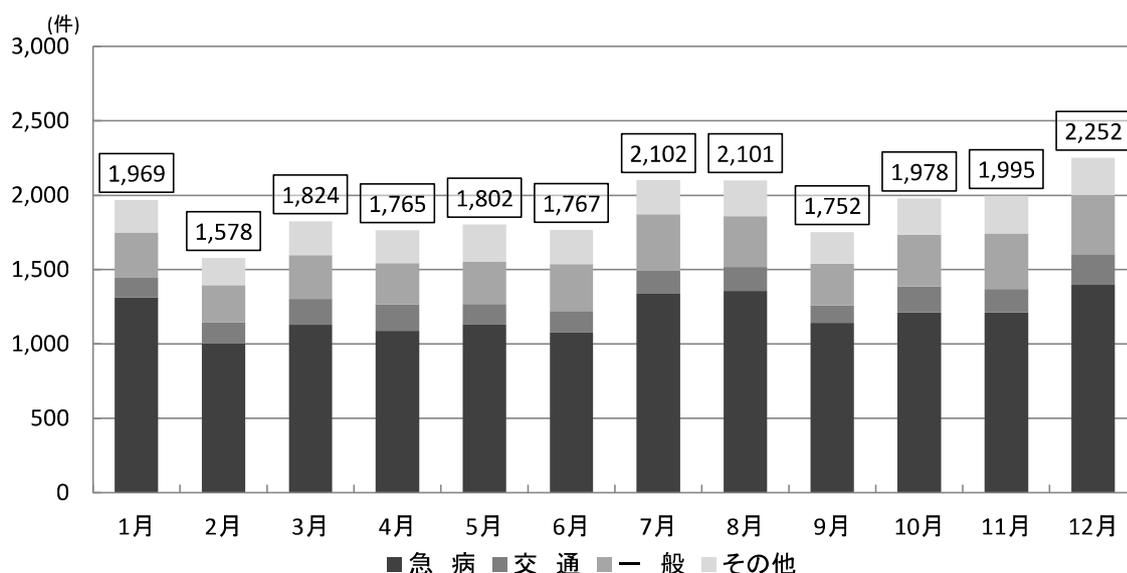
5 月別1日平均及び曜日別出場件数

月別1日平均救急出場件数は、12月の73件が最も多く、2月が56件と最も少ない月となっている。曜日別の救急出場件数をみると、1日平均救急出場件数は月曜日の68件が最も多くなっている。

第15表 月別1日平均出場件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	1,314	1,004	1,130	1,089	1,134	1,079	1,336	1,356	1,141	1,214	1,214	1,399	14,410
交通	132	142	174	178	135	143	157	162	119	172	156	205	1,875
一般	303	249	294	277	282	316	380	341	279	348	372	398	3,839
上記以外	220	183	226	221	251	229	229	242	213	244	253	250	2,761
計	1,969	1,578	1,824	1,765	1,802	1,767	2,102	2,101	1,752	1,978	1,995	2,252	22,885
1日平均	64	56	59	59	58	59	68	68	58	64	67	73	63

第16図 月別出場件数



第17表 曜日別出場件数

種別区分	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計	一日平均 出場件数	
曜日別	月	2,202	269	575	480	3,526	68
	火	2,021	277	489	442	3,229	62
	水	1,993	284	550	424	3,251	63
	木	2,078	278	507	394	3,257	63
	金	2,102	309	536	477	3,424	65
	土	1,936	283	549	286	3,054	59
	日	2,078	175	633	258	3,144	60
計	14,410	1,875	3,839	2,761	22,885	63	

6 時刻別事故種別出場件数

救急出場件数を入電時刻別でみると、最も出場の多い入電時刻は10時台の1,587件であり、最も少ないのは3時台の349件となっている。

第18表 時刻別事故種別出場件数

時刻 \ 種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
0時	416	23	70	43	552
1時	318	8	56	27	409
2時	347	12	54	33	446
3時	271	9	45	24	349
4時	298	14	47	31	390
5時	373	16	74	23	486
6時	515	42	103	30	690
7時	631	114	158	38	941
8時	789	154	215	70	1,228
9時	936	128	279	208	1,551
10時	861	119	302	305	1,587
11時	759	124	260	295	1,438
12時	759	93	251	286	1,389
13時	733	100	210	216	1,259
14時	686	110	206	182	1,184
15時	657	131	217	161	1,166
16時	654	144	232	161	1,191
17時	721	132	211	149	1,213
18時	742	108	189	119	1,158
19時	730	109	195	113	1,147
20時	670	80	170	89	1,009
21時	598	52	124	70	844
22時	522	30	96	51	699
23時	424	23	75	37	559
計	14,410	1,875	3,839	2,761	22,885

注) 入電時刻とは通信回線等が消防機関に接続した時刻をいう。

7 現場到着所要時間別出場件数

119番入電から救急車が現場に到着するまでの所要時間別の出場状況は、10分未満が19,308件で全体の84.4%を占め、平均7.8分で救急車が現場に到着している。

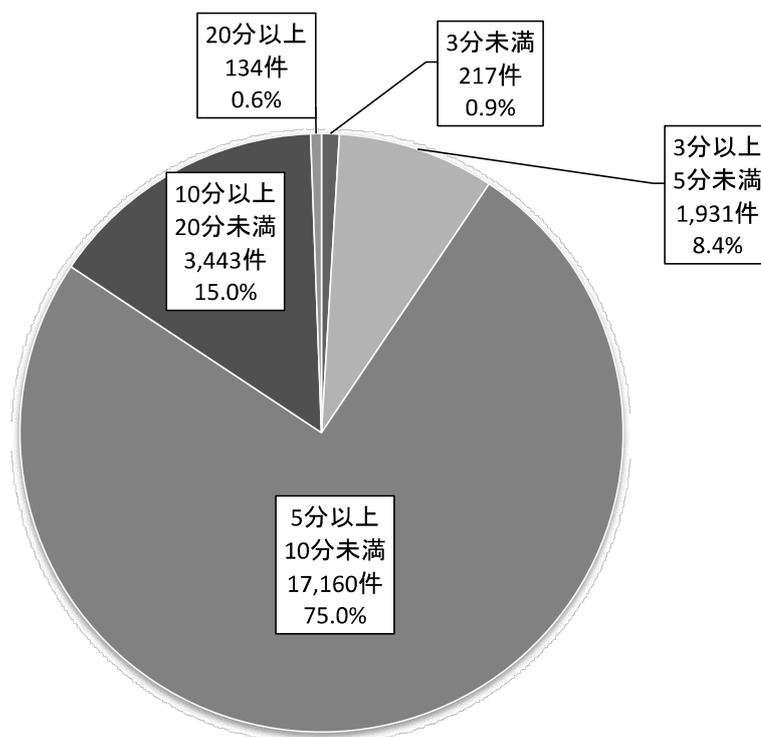
第19表 現場到着所要時間別出場件数

所要時間 事故種別	所要時間					計	平均 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	151	1,084	11,090	2,013	72	14,410	7.8
	(1.0)	(7.5)	(77.0)	(14.0)	(0.5)	(100.0)	
交通事故	12	123	1,357	375	8	1,875	8.2
	(0.6)	(6.6)	(72.4)	(20.0)	(0.4)	(100.0)	
一般負傷	33	336	2,895	558	17	3,839	7.8
	(0.9)	(8.8)	(75.4)	(14.5)	(0.4)	(100.0)	
上記以外	21	388	1,818	497	37	2,761	7.9
	(0.8)	(14.1)	(65.8)	(18.0)	(1.3)	(100.0)	
計	217	1,931	17,160	3,443	134	22,885	7.8
	(0.9)	(8.4)	(75.0)	(15.0)	(0.6)	(100.0)	

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第20図 現場到着所要時間と出場件数



8 傷病者の収容所要時間

119番入電から傷病者を収容先医療機関の医師に引き継ぐまでに要した時間は、最も多いのが30分以上60分未満の12,208人で全体の57.4%を占め、平均33.4分で医療機関に収容している。

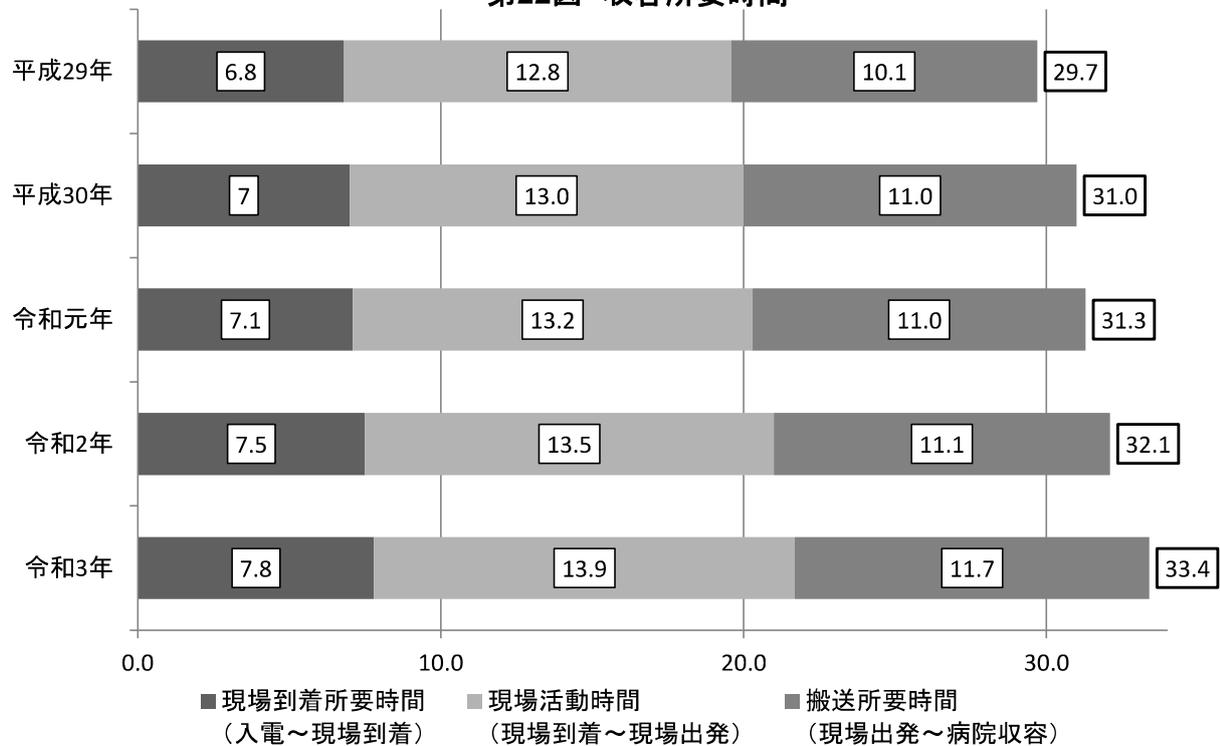
第21表 収容所要時間別事故種別搬送人員

所要時間 事故種別	所要時間						計	平均 (分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上		
急病	1	272	4,880	7,953	307	10	13,423	33.6
	(0.0)	(2.0)	(36.4)	(59.2)	(2.3)	(0.1)	(100.0)	
交通事故	0	37	685	1,139	40	2	1,903	33.6
	(0.0)	(1.9)	(36.0)	(59.9)	(2.1)	(0.1)	(100.0)	
一般負傷	1	94	1,360	2,109	76	3	3,643	33.3
	(0.0)	(2.6)	(37.3)	(57.9)	(2.1)	(0.1)	(100.0)	
上記以外	1	112	1,093	1,007	84	5	2,302	32.2
	(0.0)	(4.9)	(47.5)	(43.7)	(3.6)	(0.2)	(100.0)	
計	3	515	8,018	12,208	507	20	21,271	33.4
	(0.0)	(2.4)	(37.7)	(57.4)	(2.4)	(0.1)	(100.0)	

注) ()内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第22図 収容所要時間



9 診療科目別搬送人員

過去5年間の診療科目別搬送人員の推移を表している。令和3年は内科、外科で全体の62.6%を占めている。

第23表 診療科目/搬送人員別の推移

診療科目 \ 年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
合 計	19,840 (100.0)	23,802 (100.0)	23,469 (100.0)	20,321 (100.0)	21,271 (100.0)
外 科	4,685 (23.6)	4,998 (21.0)	4,568 (19.5)	3,693 (18.2)	4,076 (19.2)
内 科	9,481 (47.8)	11,266 (47.3)	10,486 (44.7)	8,938 (44.0)	9,237 (43.4)
脳神経外科	1,021 (5.1)	1,405 (5.9)	1,553 (6.6)	1,539 (7.6)	1,482 (7.0)
小児科	801 (4.0)	1,014 (4.3)	1,103 (4.7)	614 (3.0)	687 (3.2)
産婦人科	239 (1.2)	287 (1.2)	285 (1.2)	192 (0.9)	258 (1.2)
耳鼻咽喉科	236 (1.2)	274 (1.2)	347 (1.5)	315 (1.6)	327 (1.5)
整形外科	1,753 (8.8)	2,287 (9.6)	2,487 (10.6)	2,445 (12.0)	2,329 (11.0)
泌尿器科	150 (0.8)	196 (0.8)	264 (1.1)	267 (1.3)	285 (1.3)
精神科	111 (0.6)	143 (0.6)	171 (0.7)	122 (0.7)	139 (0.7)
眼 科	25 (0.1)	18 (0.1)	19 (0.1)	22 (0.1)	29 (0.1)
循環器科	646 (3.3)	984 (4.1)	1,061 (4.5)	1,009 (5.0)	1,101 (5.2)
呼吸器科	255 (1.3)	313 (1.3)	403 (1.7)	403 (2.0)	519 (2.4)
上記以外	437 (2.2)	617 (2.6)	722 (3.1)	762 (3.7)	802 (3.8)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

10 傷病程度別搬送人員

傷病程度別・事故種別及び年齢区分別・傷病程度別搬送人員の状況を表している。

第24表 傷病程度別・事故種別搬送人員

種別 \ 程度	死亡	重症	中等症	軽症	その他	計
急病	126 (0.9)	1,700 (12.7)	6,887 (51.3)	4,710 (35.1)	0 (0.0)	13,423 (100.0)
交通事故	1 (0.1)	65 (3.4)	529 (27.8)	1,308 (68.7)	0 (0.0)	1,903 (100.0)
一般負傷	10 (0.3)	315 (8.6)	1,504 (41.3)	1,814 (49.8)	0 (0.0)	3,643 (100.0)
上記以外	12 (0.5)	626 (27.2)	1,283 (55.7)	381 (16.6)	0 (0.0)	2,302 (100.0)
計	149 (0.7)	2,706 (12.7)	10,203 (48.0)	8,213 (38.6)	0 (0.0)	21,271 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・傷病程度の定義

死亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院) : 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

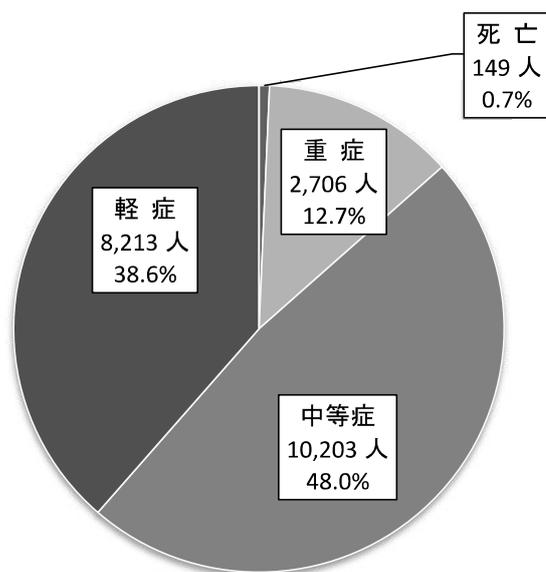
中等症(入院診療) : 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症(外来診療) : 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 : 医師の診断がないもの及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

※傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

第25図 傷病程度別搬送人員



第26表 年齢区分別傷病程度別搬送人員

区分 \ 程度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
新生児	1 (10.0)	0 (0.0)	6 (60.0)	3 (30.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
乳幼児	1 (0.1)	11 (1.5)	237 (32.3)	485 (66.1)	0 (0.0)	734 (100.0)
少 年	2 (0.3)	15 (2.1)	228 (31.4)	480 (66.2)	0 (0.0)	725 (100.0)
成 人	22 (0.3)	517 (8.0)	2,628 (40.6)	3,306 (51.1)	0 (0.0)	6,473 (100.0)
高齢者	123 (0.9)	2,163 (16.2)	7,104 (53.3)	3,939 (29.6)	0 (0.0)	13,329 (100.0)
65歳から74歳	24 (0.7)	484 (14.8)	1,625 (49.7)	1,138 (34.8)	0 (0.0)	3,271 (100.0)
75歳から84歳	49 (0.9)	783 (14.9)	2,803 (53.3)	1,621 (30.8)	0 (0.0)	5,256 (100.0)
85歳以上	50 (1.0)	896 (18.7)	2,676 (55.7)	1,180 (24.6)	0 (0.0)	4,802 (100.0)
計	149 (0.7)	2,706 (12.7)	10,203 (48.0)	8,213 (38.6)	0 (0.0)	21,271 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第27表 事故種別軽症者の推移

事故種別 \ 年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
軽症者数	8,935 (45.0)	10,306 (43.3)	9,722 (41.4)	7,747 (38.1)	8,213 (38.6)
急 病	4,913 (40.8)	5,756 (39.6)	5,500 (37.8)	4,433 (34.6)	4,710 (35.1)
交通事故	1,704 (74.9)	1,834 (73.9)	1,630 (73.8)	1,191 (68.5)	1,308 (68.7)
一般負傷	1,840 (57.1)	2,168 (52.0)	2,125 (51.8)	1,776 (48.6)	1,814 (49.8)
上記以外	478 (20.9)	548 (20.9)	467 (18.0)	347 (16.4)	381 (16.6)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

11 急病に係る搬送人員

急病の搬送人員は13,423人となっている。疾病分類では循環系の疾患が多く、脳疾患と心疾患等とで合わせて1,999人が搬送され、急病全体の搬送人員のうち14.9%を占めている。

特に高齢者は循環系、呼吸系の疾患が占める割合が高い。

傷病程度別で見ると軽症の割合は、全体で35.1%を占めている。(第30表参照)

年齢区分別にみると高齢者の割合が高く、全体の65.6%を占めている。

第28表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員の状況

分類項目		年齢区分					計
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
循環系	脳疾患	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.1)	157 (4.0)	726 (8.2)	886 (6.6)
	心疾患等	0 (0.0)	1 (0.2)	5 (1.8)	227 (5.8)	880 (10.0)	1,113 (8.3)
消化系		0 (0.0)	23 (5.1)	15 (5.5)	332 (8.5)	646 (7.3)	1,016 (7.6)
呼吸系		0 (0.0)	21 (4.7)	29 (10.6)	278 (7.2)	829 (9.4)	1,157 (8.6)
精神系		0 (0.0)	0 (0.0)	6 (2.2)	312 (8.0)	83 (0.9)	401 (3.0)
感覚系		0 (0.0)	22 (4.9)	39 (14.2)	185 (4.8)	177 (2.0)	423 (3.2)
泌尿系		0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4)	210 (5.4)	204 (2.3)	415 (3.1)
新生物		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	44 (1.1)	159 (1.8)	203 (1.5)
その他		4 (57.1)	9 (2.0)	12 (4.4)	291 (7.5)	605 (6.9)	921 (6.9)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		3 (42.9)	371 (83.0)	164 (59.9)	1,851 (47.6)	4,499 (51.1)	6,888 (51.3)
計		7 (100.0)	447 (100.0)	274 (100.0)	3,887 (100.0)	8,808 (100.0)	13,423 (100.0)

注) 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO（世界保健機関）で定める国際疾病分類（ICD）により分類したものである。

注) 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。

注) 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。

注) 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

注) 「症状・徴候・診断名不明確の状態」とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の傷病名である。

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

注) 急病の搬送人員は、事故種別搬送人員から算出している。

第29表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 分類項目		死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
循環系	脳疾患	0 (0.0)	385 (22.6)	444 (6.4)	57 (1.2)	886 (6.6)
	心疾患等	11 (8.7)	277 (16.3)	545 (7.9)	280 (5.9)	1,113 (8.3)
消化系		2 (1.6)	66 (3.9)	601 (8.7)	347 (7.4)	1,016 (7.6)
呼吸系		0 (0.0)	181 (10.6)	685 (9.9)	291 (6.2)	1,157 (8.6)
精神系		0 (0.0)	15 (0.9)	137 (2.0)	249 (5.3)	401 (3.0)
感覚系		0 (0.0)	14 (0.8)	197 (2.9)	212 (4.5)	423 (3.2)
泌尿系		0 (0.0)	20 (1.2)	184 (2.7)	211 (4.5)	415 (3.1)
新生物		1 (0.8)	82 (4.8)	106 (1.5)	14 (0.3)	203 (1.5)
その他		1 (0.8)	58 (3.4)	527 (7.7)	335 (7.1)	921 (6.9)
症状・徴候・診断名 不 明 確 の 状 態		111 (88.1)	602 (35.4)	3,461 (50.3)	2,714 (57.6)	6,888 (51.3)
計		126 (100.0)	1,700 (100.0)	6,887 (100.0)	4,710 (100.0)	13,423 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第30表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
新生児	1 (0.8)	0 (0.0)	5 (0.1)	1 (0.0)	7 (0.1)
乳幼児	1 (0.8)	5 (0.3)	170 (2.5)	271 (5.8)	447 (3.3)
少 年	1 (0.8)	3 (0.2)	103 (1.5)	167 (3.5)	274 (2.0)
成 人	14 (11.1)	277 (16.3)	1,658 (24.1)	1,938 (41.1)	3,887 (29.0)
高齢者	109 (86.5)	1,415 (83.2)	4,951 (71.9)	2,333 (49.5)	8,808 (65.6)
計	126 (100.0)	1,700 (100.0)	6,887 (100.0)	4,710 (100.0)	13,423 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置

搬送人員21,271人のうち、応急処置を実施した傷病者は21,178人である。

特定行為等（器具による気道確保、気管内チューブによる気道確保、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、ブドウ糖投与）の件数は678件となっている。

第31表 救急隊員の行った応急処置

事故種別 応急処置対象人員	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
処置項目	13,360人	1,902人	3,641人	2,275人	21,178人
止血	57 (0.1)	49 (0.5)	197 (1.2)	40 (0.4)	343 (0.3)
固定	116 (0.2)	786 (8.8)	514 (3.1)	151 (1.4)	1,567 (1.6)
人工呼吸	21 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.0)	6 (0.1)	32 (0.0)
酸素吸入	2,832 (4.5)	143 (1.6)	247 (1.5)	592 (5.7)	3,814 (3.8)
保温	442 (0.7)	70 (0.8)	91 (0.5)	85 (0.8)	688 (0.7)
被覆	51 (0.1)	310 (3.5)	758 (4.5)	109 (1.0)	1,228 (1.2)
心肺蘇生	440 (0.7)	7 (0.1)	40 (0.2)	33 (0.3)	520 (0.5)
胸骨圧迫	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
在宅療法	251 (0.4)	1 (0.0)	34 (0.2)	10 (0.1)	296 (0.3)
血圧測定	12,681 (20.0)	1,866 (20.8)	3,495 (20.8)	2,172 (20.8)	20,214 (20.3)
心音・呼吸音聴取	11,490 (18.2)	1,631 (18.2)	3,071 (18.3)	1,875 (18.0)	18,067 (18.2)
血中酸素飽和度測定	12,945 (20.5)	1,896 (21.1)	3,587 (21.4)	2,237 (21.4)	20,665 (20.8)
心電図測定	11,259 (17.8)	755 (8.4)	1,925 (11.5)	1,445 (13.9)	15,384 (15.5)
気道確保	652 (1.0)	12 (0.1)	63 (0.4)	46 (0.4)	773 (0.8)
用手	304	9	32	27	372
経鼻エアウェイ	1	0	0	2	3
喉頭鏡・鉗子等	1	0	11	0	12
フリンゲアルマスク等	341	3	11	17	372
気管内チューブ	5	0	9	0	14
ビデオ喉頭鏡	3	0	5	1	9
除細動	30 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	30 (0.0)
静脈路確保	130 (0.2)	7 (0.0)	12 (0.1)	6 (0.1)	155 (0.2)
心肺機能停止前	31	6	8	2	47
心肺機能停止後	99	1	4	4	108
薬剤投与	49 (0.1)	2 (0.0)	2 (0.0)	3 (0.0)	56 (0.1)
血糖測定	40 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	41 (0.0)
ブドウ糖投与	10 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (0.0)
その他	9,800 (15.5)	1,438 (16.0)	2,745 (16.4)	1,623 (15.6)	15,606 (15.7)
計	63,296 (100.0)	8,975 (100.0)	16,785 (100.0)	10,433 (100.0)	99,489 (100.0)

注) ()内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第32表 救急救命処置実施数の推移

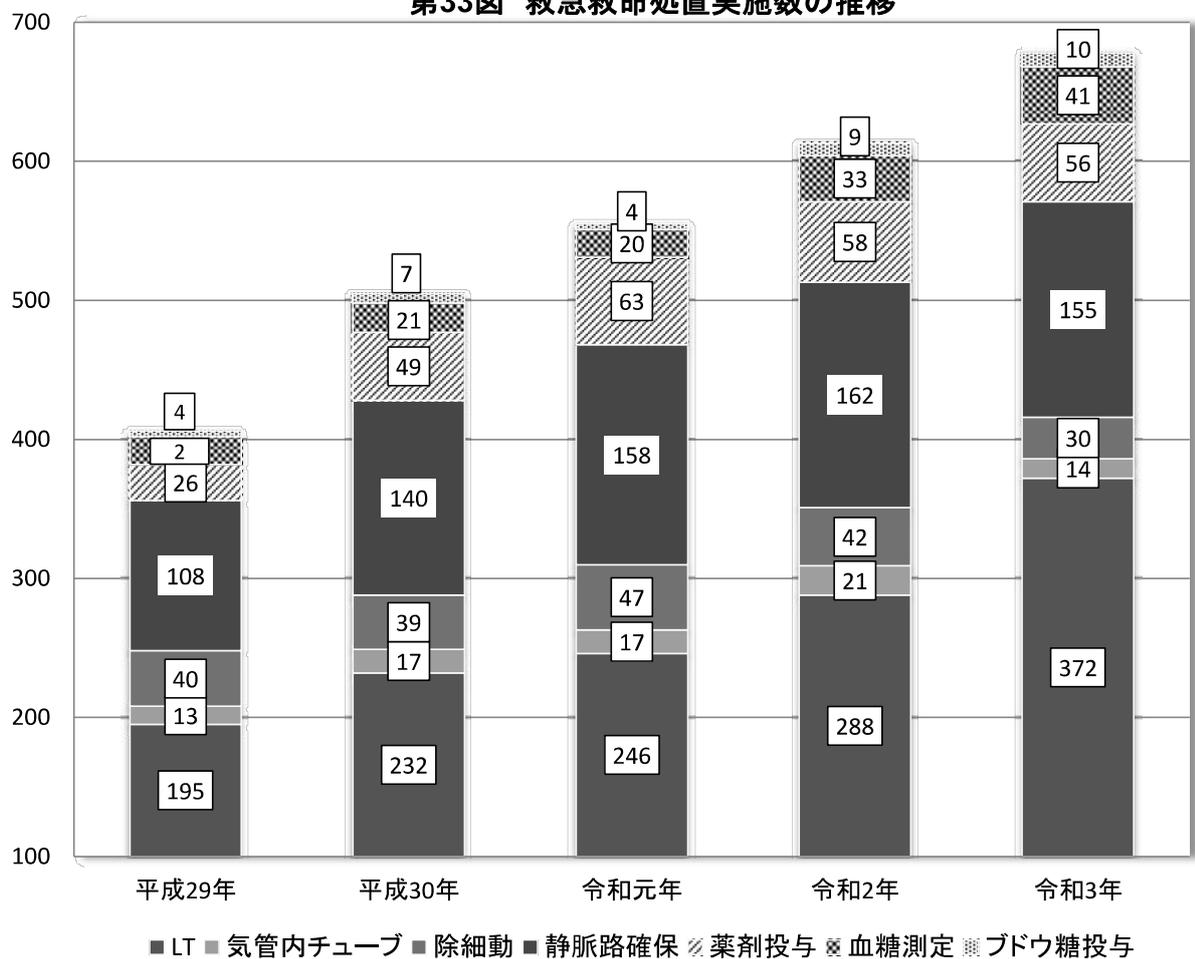
処置内容		LT	気管内チューブ	除細動	静脈路確保	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	合計
処置実績	平成29年	195	13 (2)	40	108 (12)	26	20	4	348
	平成30年	232	17 (3)	39	140 (25)	49	21	7	505
	令和元年	246	17 (6)	47	158 (29)	63	20	4	555
	令和2年	288	21 (8)	42	162 (40)	58	33	9	613
	令和3年	372	14 (9)	30	155 (47)	56	41	10	678

注) 気管内チューブの () 内はビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管を示す。

注) 処置内容のLTは、ラリングアルチューブを示す。

注) 静脈路確保の () 内はCPA前静脈路確保を示す。

第33図 救急救命処置実施数の推移



- ※ 平成15年4月 除細動 (医師の具体的指示は不要)
- ※ 平成16年8月 除細動 (救急救命士以外の救急隊員も実施可能)
- ※ 平成16年7月 気管内チューブによる気道確保
- ※ 平成18年4月 薬剤投与 (アドレナリン投与)
- ※ 平成23年8月 ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管
- ※ 平成26年4月 新処置 (血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、CPA前静脈路確保と輸液)

2 ウツタイン様式調査

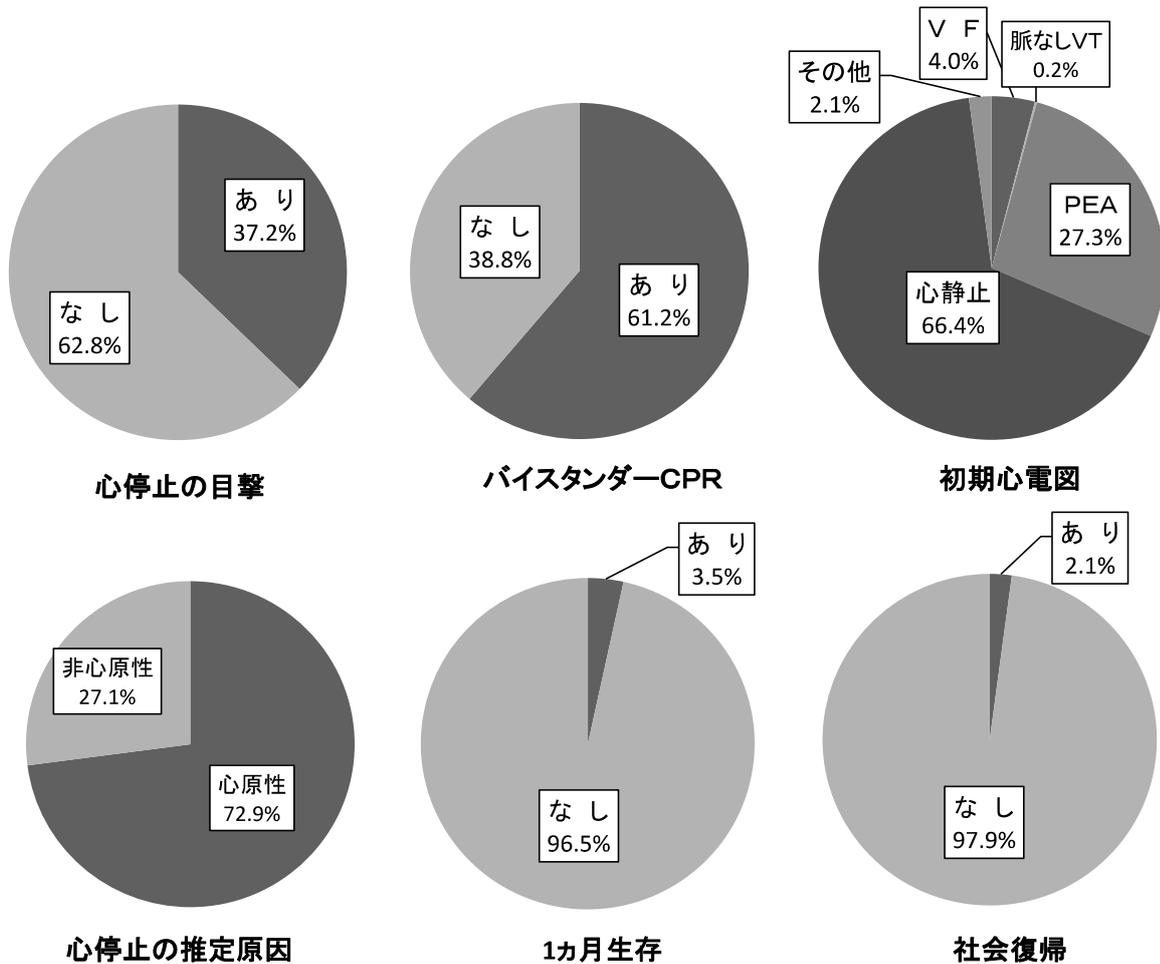
令和3年中において、救急隊が搬送したウツタイン様式調査の対象となる521人のうち、家族や救急隊員による心肺停止の目撃、CPRの有無、傷病者の1ヵ月以内の生存の割合について、救急救命士が対応した場合と一般隊員が対応した場合とに分け比較したものである。

第34表 ウツタイン様式調査

対象人数 521人

		救急救命士隊		その他の隊		合計	
心停止の目撃	あり	194	37.2%	0	0.0%	194	37.2%
	なし	327	62.8%	0	0.0%	327	62.8%
バイスタンダーCPR	あり	319	61.2%	0	0.0%	319	61.2%
	なし	202	38.8%	0	0.0%	202	38.8%
初期心電図	V F	21	4.0%	0	0.0%	21	4.0%
	脈なしVT	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%
	PEA	142	27.3%	0	0.0%	142	27.3%
	心静止	346	66.4%	0	0.0%	346	66.4%
	その他	11	2.1%	0	0.0%	11	2.1%
心停止の推定原因	心原性	380	72.9%	0	0.0%	380	72.9%
	非心原性	141	27.1%	0	0.0%	141	27.1%
1ヵ月生存	あり	18	3.5%	0	0.0%	18	3.5%
	なし	503	96.5%	0	0.0%	503	96.5%
社会復帰	あり	11	2.1%	0	0.0%	11	2.1%
	なし	510	97.9%	0	0.0%	510	97.9%

第35図 ウツタインの状況



第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員

医療機関に搬送した21,271人のうち救急告示医療機関への搬送人員は20,944人（98.5%）で救急告示医療機関以外への搬送人員は、327人（1.5%）である。

第36表 医療機関別搬送人員

区分 告示別	医 療 機 関						構 成 比	そ の 他 の 場 所			合 計
	国 立	公 立	公 病 院	私 病 院	私 的 診 療 所	計		接 骨 院 等	そ の 他 の 場 所	計	
救急告示	1,319 (2)	9,211 (689)	2,976 (188)	7,433 (1,421)	5 (0)	20,944 (2,300)	98.5%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20,944 (2,300)
非告示	0 (0)	0 (0)	0 (0)	219 (31)	108 (5)	327 (36)	1.5%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	327 (36)
計	1,319 (2)	9,211 (689)	2,976 (188)	7,652 (1,452)	113 (5)	21,271 (2,336)	100.0%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21,271 (2,336)

注）（ ）内は管外の医療機関へ搬送された人員である。

2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

管内の医療機関に89.0%搬送されている。

第37表 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

区分 年	搬送人員	搬 送 先 医 療 機 関						管 外 搬送率
		管 内			管 外			
					県 内	県 外		
平成29年	19,840	17,054	86.0%	2,770	14.0%	16	0.1%	14.0%
平成30年	23,802	21,234	89.2%	2,554	10.7%	14	0.1%	10.8%
令和元年	23,469	20,911	89.1%	2,533	10.8%	25	0.1%	10.9%
令和2年	20,321	18,186	89.5%	2,119	10.4%	16	0.1%	10.5%
令和3年	21,271	18,935	89.0%	2,318	10.9%	18	0.1%	11.0%

3 転送の状況

「転送」とは、何らかの理由により、初回の搬送先医療機関で収容できなかったため、さらに当該医療機関等以外の医療機関へ搬送した場合をいう。

令和3年中の搬送人員（21,271人）について、転送回数別搬送人員の状況を表し、転送なしに収容された傷病者は、21,246人（99.9%）であり、残りの25人（0.1%）は表39の理由により転送されている。

第38表 転送回数別搬送人員(事故種別)

事故種別	転送の有無 及び回数	転送なし (A)	転送回数					小計 (B)	計 (C) (A) + (B)	転送率 (B)/(C) ×100
			1回	2回	3回	4回	5回 以上			
急病		13,405	18	0	0	0	0	18	13,423	0.1%
交通事故		1,900	3	0	0	0	0	3	1,903	0.2%
一般負傷		3,639	4	0	0	0	0	4	3,643	0.1%
上記以外		2,302	0	0	0	0	0	0	2,302	0.0%
計		21,246	25	0	0	0	0	25	21,271	0.1%

第39表 事故種別による転送理由

転送となった25件について、初回の医療機関に収容できなかった理由は、処置困難のケースが多く52.0%を占めている。

種別 理由	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
ベッド満床	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.0)
専門外	7 (38.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (28.0)
医師不在	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
手術中	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
処置困難	7 (38.9)	2 (66.7)	4 (100.0)	0 (0.0)	13 (52.0)
理由不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	4 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (16.0)
計	18 (100.0)	3 (100.0)	4 (100.0)	0 (0.0)	25 (100.0)

注) () 内は構成比を示し、単位は%である。

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況

応急手当普及啓発活動については、救命講習等を300回開催し、151人が受講した。

普及啓発用資器材の保有状況については、蘇生訓練用人形が成人用84体、小児用42体、乳児用42体、AEDトレーナー84器、救命処置訓練人形6体、外傷用模型セットを1セット保有している。

岐阜市消防本部では、住民を対象に日曜救命講習及び夜間救命講習を開催している。

また、公立中学校と希望する私立中学校の生徒を対象に、「命の教育」として短時間救命講習を実施している。

さらに、平成27年から実施している応急手当普及員講習 I により、91人の応急手当普及員を認定している。令和3年は、この応急手当普及員により10回の救命講習が実施され、348人が受講した。

第40表 講習別救命講習実施人員

種別 区分	上級 救命講習	普通 救命講習 I	普通 救命講習 II	普通 救命講習 III	ステップアップ 講習	救命入門 コース	救命講習 以外講習	合 計
	実施回数	5	64	1	11	74	83	
受講者数	41	531	20	95	697	1,302	3,465	6,151

第41表 受講対象者別救命講習受講人数

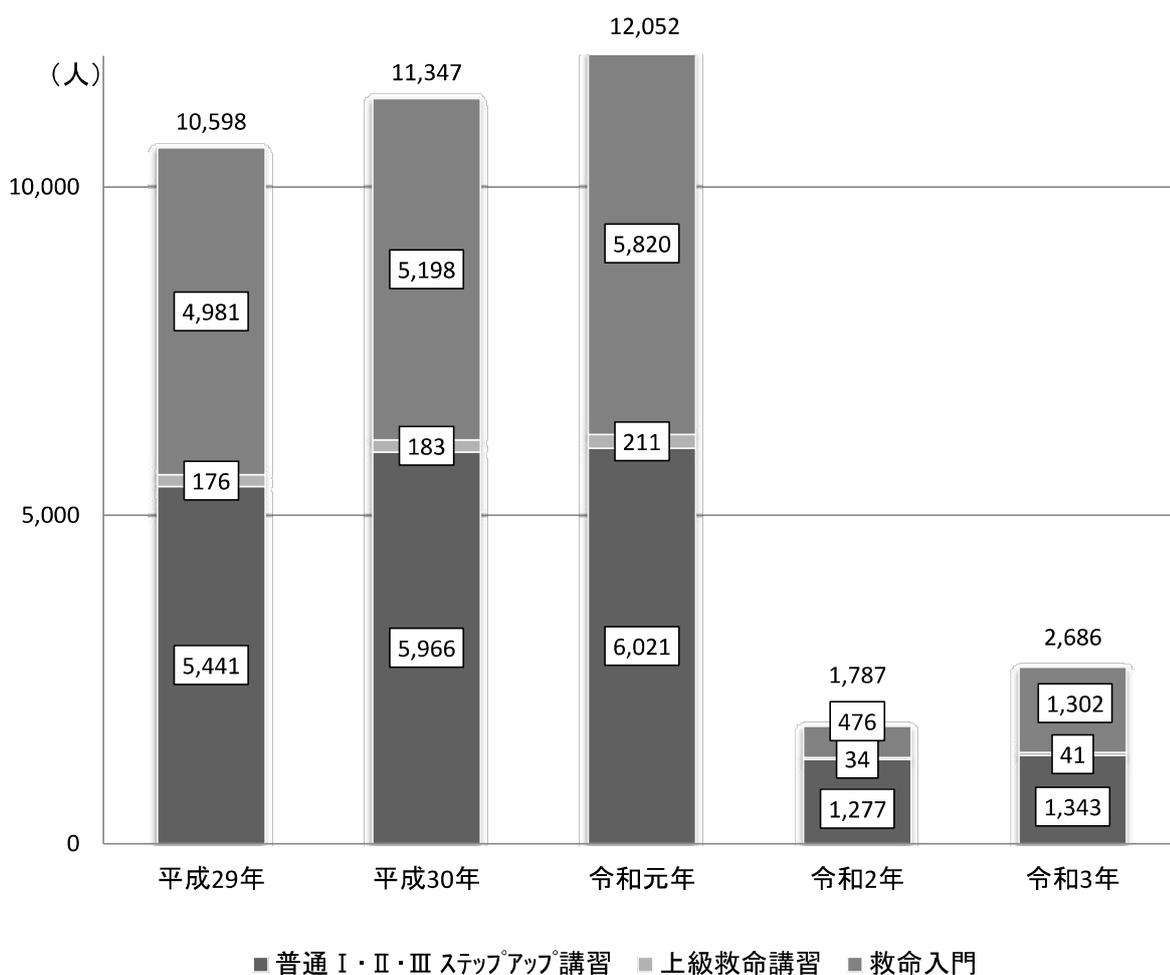
年	団体	事業所	市町職員	自治会等	女性防火	消防団	学校等	日曜救命	夜間救命	その他	合 計
	平成30年		4,196	329	1,762	613	565	16,198	399	37	
令和元年		4,393	794	2,434	655	656	14,014	470	70	3,017	26,503
令和2年		529	441	72	50	65	1,970	162	16	279	3,584
令和3年		663	252	204	158	14	4,385	167	12	296	6,151

2 救命講習の受講人員の推移

第42表 救命講習の受講人員の推移

種別 年	普通 I・II・III ステップアップ講習 A	上級救命講習 B	小 計 C=A+B	救命入門 コース D	合 計 C+D
平成29年	5,441	176	5,617	4,981	10,598
平成30年	5,966	183	6,149	5,198	11,347
令和元年	6,021	211	6,232	5,820	12,052
令和2年	1,277	34	1,311	476	1,787
令和3年	1,343	41	1,384	1,302	2,686

第43図 救命講習の受講人数



令和3年救急業務の年表

記 事	
令和3年 1月22日	令和2年度第3回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG 山田 和憲
令和3年 1月25日	岐阜県周産期医療協議会 救急課 根尾惣磨（消防長代理出席）
令和3年 1月28日 ～ 1月29日	第29回全国救急隊員シンポジウム(現地、Webのハイブリット方式) 開催場所：大阪府堺市 助言者：根尾 惣磨(オンライン参加)
令和3年 2月 3日	令和2年度第2回岐阜地域メディカルコントロール協議会 救急課長 長崎信隆、後藤雄史
令和3年 2月18日	第17回岐阜市救急業務対策協議会(書面)
令和3年 2月22日	松波総合病院地域医療支援病院委員会（書面） 救急課長 長崎信隆
令和3年 2月22日	第1回岐阜県循環器病対策推進協議会（オンライン開催） 救急課長 長崎信隆
令和3年 2月24日	処置範囲拡大に係る基礎知識習得講習会 河田憲太郎、棚橋滉真、中島光彦
令和3年 3月11日	第46回岐阜赤十字病院地域医療連携支援病院委員会（書面） 救急課長 長崎信隆
令和3年 3月18日	救急救命士の薬剤投与の実施に係る修了実習：井川裕也、古田章
令和3年 3月18日	ビデオ喉頭鏡修了実習：加納大輝、勝村雄介
令和3年 3月18日	令和2年度岐阜県外国人患者受入体制整備協議会 救急課長 長崎信隆
令和3年 3月26日	岐阜県メディカルコントロール協議会 岐阜県消防長会長 山本剛、救急課長 長崎信隆
令和3年 4月 6日 ～10月 5日	第60期救急救命東京研修所派遣 岩田貴斗、川端大輝、加藤智哉
令和3年 4月12日 ～ 4月13日	救急係長会議 〃
令和3年 4月19日 ～ 5月21日	救急救命士の就業前病院実習 岐阜県総合医療センター：福田兼司、三島喜一郎、小酒井大貴 岐阜清流病院：早矢仕尚孝、鋒山伸久 岐北厚生病院：宮澤徳人
令和3年 5月20日	松波総合病院地域医療支援病院委員会（書面） 救急課長 長崎信隆
令和3年 5月31日	令和3年度第1回救急担当者会議（岐阜県総合医療センター）オンライン開催
令和3年 6月 7日	第1回岐阜地域メディカルコントロール協議会(オンライン開催) 救急課長 長崎信隆、松葉 亮
令和3年 6月10日 ～ 6月12日	第24回日本救急医学会総会・学術集会(オンライン開催) 田中憲生、澤田知孝、松葉亮

記 事	
令和3年 6月14日	第47回岐阜赤十字病院地域医療連携支援病院委員会（書面） 救急課長 長崎信隆
令和3年 6月24日 6月25日	処置拡大二行為養成研修 榊泰浩、小森崇司、伊藤佑一、杉山清彦、池田和樹
令和3年 7月 3日	岐阜県救急医療研究会総会・学術集会
令和3年 7月 5日	令和3年度第1回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG （オンライン開催）白井康介
令和3年 7月 5日 ～ 7月 8日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜大学医学部附属病院：豊田圭太郎
令和3年 7月 5日 ～ 8月18日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜市民病院：野田智昭
令和3年 7月 8日	第2回岐阜県循環器病対策推進協議会（オンライン開催） 救急課長 長崎信隆
令和3年 7月 9日	循環器病対策推進基本計画に沿った救急搬送体制の整備に基づく 岐阜市民病院専門医による講演 【講師】岐阜市民病院 医療技術局長 第一内科部長 西垣和彦医師
令和3年 7月10日 7月25日	応急手当普及員再講習（消防本部6階 大会議室） 〃
令和3年 7月12日 ～ 8月20日	採用時救急救命士資格を有する職員の就業前病院実習 岐阜赤十字病院：太田光祐、六坊章宏
令和3年 7月12日 ～ 7月16日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜大学医学部附属病院：松葉亮
令和3年 7月 5日 ～ 8月12日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：勝村雄介、福田祐一、吉田侑佑 ：岩井拓也、白木正成 朝日大学病院：谷山貴由、中田智義、瀬里崎敦 岐阜市民病院：渡邊亮、伊藤孝行
令和3年 7月26日	令和3年度第1回岐阜市民病院地域医療支援委員会 救急課長 長崎信隆（消防長代理出席）
令和3年 7月26日 ～ 7月28日	患者等搬送乗務員適任者講習（消防本部6階 大会議室） 〃
令和3年 7月29日 ～ 7月30日	患者等搬送乗務員定期講習（消防本部6階 大会議室） 〃
令和3年 8月 2日 ～ 8月31日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 朝日大学病院：林剛志
令和3年 8月 2日 ～ 9月16日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 松波総合病院：小林寛樹
令和3年 8月 3日	岐阜県メディカルコントロール協議会（オンライン開催） 岐阜県消防長会長 山本剛、救急課長 長崎信隆
令和3年 8月 5日 8月 6日	処置拡大二行為養成研修 勝村雄介、谷山貴由、澤田隼人、渡邊亮、福田祐一

	記 事
令和3年 8月10日	階級(消防士・消防副士長)に応じた救急研修(本巢消防署大会議室)
8月11日	〃
令和3年 8月19日	階級(消防士長)に応じた救急研修(本巢消防署大会議室)
8月20日	〃
令和3年 8月16日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～ 8月19日	岐阜赤十字病院：中島裕志
令和3年 8月23日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～ 8月26日	岐阜赤十字病院：榊泰浩
令和3年 8月24日	第31期名古屋市救急救命研修所派遣
～令和4年3月14日	片桐将
令和3年 8月24日	採用直後に救急救命士資格を取得した職員への救急課教育
	小酒井大貴、太田光祐、六坊章宏
令和3年 8月25日	松波総合病院地域医療支援病院委員会（書面）
	救急課長 長崎信隆
令和3年 9月 3日	第40期救急救命九州研修所派遣
～令和4年3月14日	田中佑典、佐藤悠太
令和3年 9月 9日	第48回岐阜赤十字病院地域医療連携支援病院委員会（書面）
	救急課長 長崎信隆
令和3年 9月14日	第3回岐阜県循環器病対策推進協議会（書面）
	救急課長 長崎信隆
令和3年10月 1日	救急安心センターぎふ#7119運用開始
令和3年10月 5日	令和3年度岐阜ブロック救急担当課長会議 オンライン開催
令和3年10月 6日	令和3年度第2回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG （オンライン開催）臼井康介
令和3年10月 8日	第2回岐阜地域メディカルコントロール協議会
	救急課長 長崎信隆、松葉 亮
令和3年10月11日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習
～12月13日	朝日大学病院 : 毛利哲朗(10月11日～11月18日) 岐阜県総合医療センター：野久雅俊(10月25日～11月25日) 岐阜市民病院 : 富田達彦(10月25日～12月13日)
令和3年10月11日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～10月20日	岐阜市民病院：塩中崇志、鎧塚寿人
令和3年10月21日	ビデオ喉頭鏡修了実習：豊田圭太郎
令和3年10月21日	薬剤投与修了実習：早矢仕尚孝、三島喜一郎、小林亮太
令和3年10月25日	採用時救急救命士資格を有する職員の就業前病院実習
～12月 3日	岐阜市民病院：藤澤柊斗
令和3年10月26日	救急コ・メディカルセミナー(第42回)開催 YouTubeにて限定配信
令和3年11月 5日	岐阜県メディカルコントロール協議会「プロトコール検討部会」
	救急指導係長 青谷洋人
令和3年11月 5日	岐阜県メディカルコントロール協議会「救急隊員教育部会」
	救急課長 長崎信隆

記 事	
令和3年11月 8日 ～11月17日	救急救命士の再教育実施要領に基づく病院研修 岐阜清流病院：松久剛弘、松葉亮(11月8日～11月10日) ：宇佐見政史、安藤昌信(11月15日～11月17日)
令和3年11月11日	第9回岐阜市多数傷病者対応訓練(図上訓練)
令和3年11月18日	ビデオ喉頭鏡修了実習：足立広治、松葉亮
令和3年11月18日	薬剤投与修了実習：福田兼司、中島嘉彦、鋒山伸久
令和3年11月22日	令和3年度第2回岐阜市民病院地域医療支援委員会 救急課長 長崎信隆 (消防長代理出席)
令和3年11月25日	松波総合病院地域医療支援病院委員会 (書面) 救急課長 長崎信隆
令和3年12月 4日	第24回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会 (オンライン開催) 白濱英徳、横田真澄、森下拓海、森一樹
令和3年12月 6日	第2回岐阜県メディカルコントロール協議会 救急課長 長崎信隆
令和3年12月 6日	第49回岐阜赤十字病院地域医療連携支援病院委員会 (書面) 救急課長 長崎信隆
令和3年12月 8日 12月 9日	処置拡大二行為養成研修 瀬里崎敦、伊藤孝行、吉田侑佑、岩井拓也、中田智義
令和3年12月16日	ビデオ喉頭鏡修了実習：中島裕志、鎧塚寿人
令和3年12月16日	薬剤投与修了実習：坪内咲樹、加藤浩介
令和3年12月18日	令和3年度メディカルコントロールに係る研修会